

DI トピックス

2014 年 新規薬価収載・適応追加の抗がん剤

がん関連研究の進展は速く、新薬の発売や既存薬剤の適応追加が頻繁になされております。

薬剤師は、「治療薬マニュアル」「今日の治療薬」といった書籍を利用することも多いと思いますが、それらの情報も一年の後半には古いものとなってしまいます。

今回は、2014年1月以降に薬価収載、適応追加となった抗がん剤の情報をまとめてみたいと思います。

◆新規薬価収載

ロンサーフ配合錠

成分名：トリフルリジン・チピラシル塩酸塩

適応：治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌（標準的な治療が困難な場合に限る）

用量用法：通常、成人には初回投与量（1回量）を体表面積に合わせて次の基準量とし（トリフルリジンとして約35mg/m²/回）、朝食後及び夕食後の1日2回、5日間連続経口投与したのち2日間休薬する。これを2回繰り返したのち14日間休薬する。これを1コースとして投与を繰り返す。

なお、患者の状態により適宜減量する。

備考：空腹時に本剤を投与した場合、食後投与と比較してトリフルリジン（FTD）のC_{max}の上昇が認められることから、空腹時投与を避けること。

薬価収載：2014年5月

イクスタンジカプセル

成分名：エンザルタミド

適応：去勢抵抗性前立腺癌

用量用法：通常、成人にはエンザルタミドとして160mgを1日1回経口投与する。

備考：外科的又は内科的去勢術と併用しない場合の有効性及び安全性は確立していない。

薬価収載：2014年5月

ザイティガ錠

成分名：アピラテロン酢酸エステル

適応：去勢抵抗性前立腺癌

用量用法：プレドニゾンとの併用において、通常、成人にはアピラテロン酢酸エステルとして1日1回1,000mgを空腹時に経口投与する。

備考：本剤は食事の影響によりC_{max}及びAUCが上昇するため、食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。

薬価収載：2014年9月

アレセンサカプセル

成分名：アレクチニブ

適応：ALK 融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

用量用法：通常、成人にはアレクチニブとして1回300mgを1日2回経口投与する。

備考：食事の影響を避けるため、本剤の投与時期は、臨床試験における設定内容に準じて空腹時に投与することが望ましい。

薬価収載：2014年9月

ジェブタナ点滴静注

成分名：カバジタキセル アセトン付加物製剤

適応：前立腺癌

用量用法：プレドニゾロンとの併用において、通常、成人に1日1回、カバジタキセルとして25mg/m²（体表面積）を1時間かけて3週間間隔で点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量すること。

備考：本剤投与時にあらわれることがある過敏反応を軽減させるために、本剤投与の30分前までに、抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン剤、H₂受容体拮抗剤等の前投与を行うこと。

薬価収載：2014年9月

ジャカピ錠

成分名：ルキシソリチニブリン酸塩

適応：骨髄線維症

用量用法：通常、成人には本剤を1日2回、12時間毎を目安に経口投与する。用量は、ルキシソリチニブとして1回5mg～25mgの範囲とし、患者の状態により適宜増減する。

備考：初のヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤。

薬価収載：2014年9月

◆新規適応追加

アフィニトール錠

成分名：エベロリムス

追加適応：手術不能又は再発乳癌

用量用法：内分泌療法剤との併用において、通常、成人にはエベロリムスとして1日1回10mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

備考：既存の適応は、根治切除不能又は転移性の腎細胞癌など。

エキセメスタン以外の内分泌療法剤との併用について、有効性及び安全性は確立していない。

適応追加：2014年3月

ヴォトリエント錠

成分名：パゾパニブ塩酸塩

追加適応：根治切除不能又は転移性の腎細胞癌

用量用法：通常、成人にはパゾパニブとして1日1回800mgを食事の1時間以上前又は食後2時間以降に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

備考：既存の適応は、悪性軟部腫瘍。

適応追加：2014年3月

ポテリジオ点滴静注

成分名：モガムリズマブ

追加適応：再発又は難治性のCCR4陽性の末梢性T細胞リンパ腫，再発又は難治性のCCR4陽性の皮膚T細胞性リンパ腫

用量用法：通常、成人には、モガムリズマブ（遺伝子組換え）として、1回量1mg/kgを1週間間隔で8回点滴静注する。

備考：既存の適応は、再発又は難治性のCCR4陽性の成人T細胞白血病リンパ腫。

適応追加：2014年3月

ネクサパール錠

成分名：ソラフェニブ

追加適応：根治切除不能な分化型甲状腺癌

用量用法：通常、成人にはソラフェニブとして1回400mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

備考：既存の適応は、根治切除不能又は転移性の腎細胞癌、切除不能な肝細胞癌。

放射性ヨウ素による治療歴のない患者に対する本剤の有効性及び安全性は確立していない。定期的に血清カルシウム濃度、甲状腺刺激ホルモン濃度を測定すること。

適応追加：2014年6月

参考文献

各医薬品添付文書